全道3月中の交通事故分析について
（過去5か年死亡・重傷事故）

令　和　7　年　2　月　1　3　日
警　察　本　部　交　通　企　画　課

【概況】

○　発生件数全体の事故類型では、人対車両が最も多く、次いで出会い頭が多い。
　死亡事故件数で見ると、人対車両が最も多く、次いで車両単独が多い。

○　四輪乗車中の死者のうち、約6割がシートベルト非着用で、非着用のうち4割以上がシートベルトを着用していれば助かった可能性が高い。

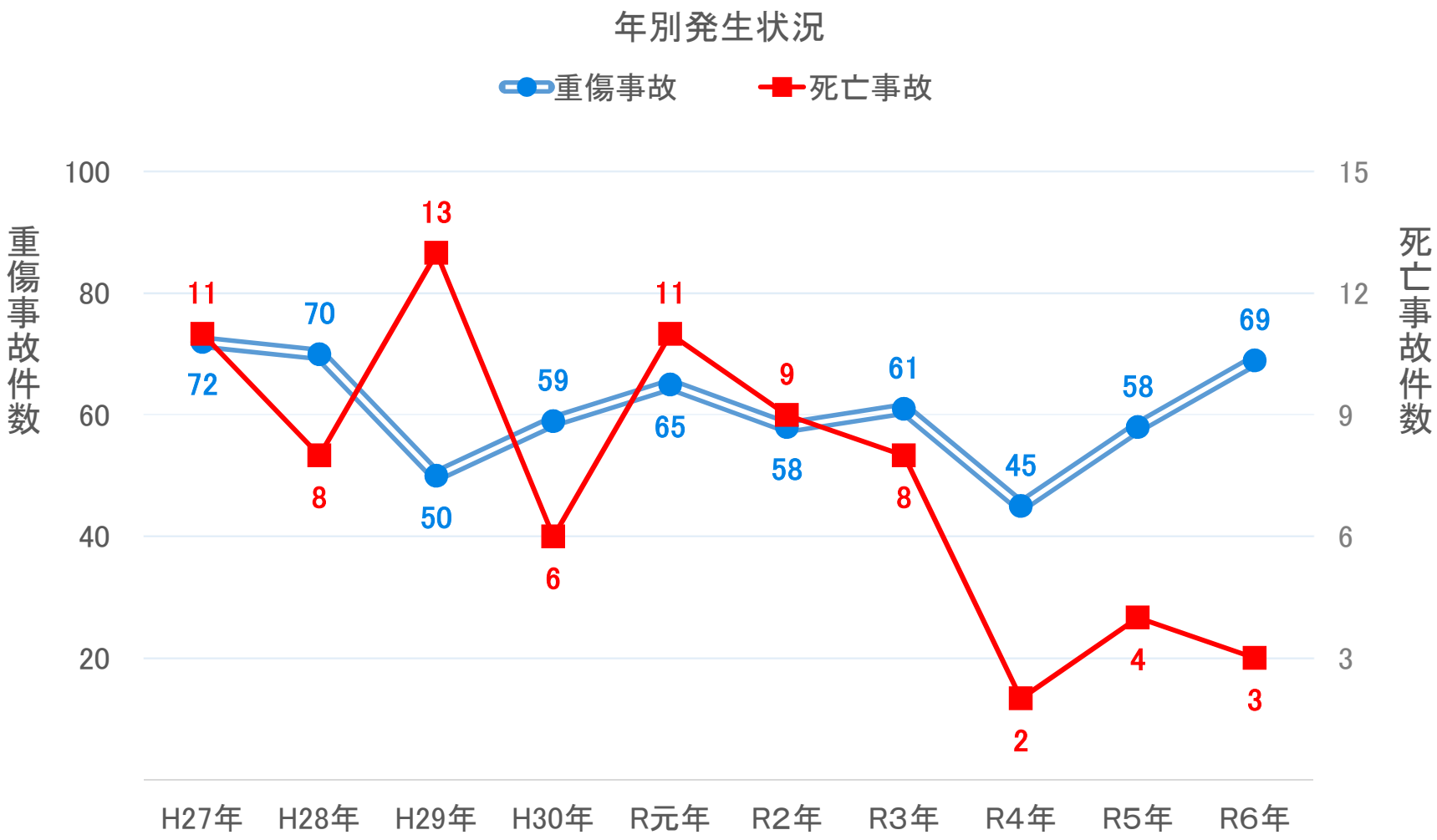
○　人対車両は、時間帯別では、18時から20時が最も多い。
　地形別では市街地交差点及び市街地直線で9割以上を占めている。
　第1当事者（車両）の違反別では、歩行者妨害が最も多く、次いで安全不確認が多い。
　年齢層別死傷者数では、65歳以上が最も多く、全体の5割以上を占めている。
　道路横断中の死者のうち、歩行者全員に横断歩道外横断などの法令違反あり。

○　正面衝突及び車両単独は、時間帯別では10時から12時が最も多く、地形別では非市街地の発生が多く、全体の約7割を占める。
　第1当事者の年齢層別では、65歳以上の高齢運転者が最も多く、次いで50歳代が多い。
　第1当事者（車両）の違反別では、操作不適が最も多く、そのうち6割以上がスリップを要因としている。
　スリップ事故の時間帯別では、10時から12時が最も多い。

注1　本資料は、令和6年9月末日までに入手した3月中発生の事故データにより作成したものである。
注2　「重傷」とは、1か月（30日）以上の治療を要する負傷をいう。
注3　「第1当事者」とは、最初に交通事故に関与した車両等（列車を含む。）の運転者又は歩行者のうち、当該交通事故における過失が重い者、又は過失が同程度の場合には人身損傷程度が軽い者をいい、本資料中の「1当」とは、第1当事者を省略した表記である。

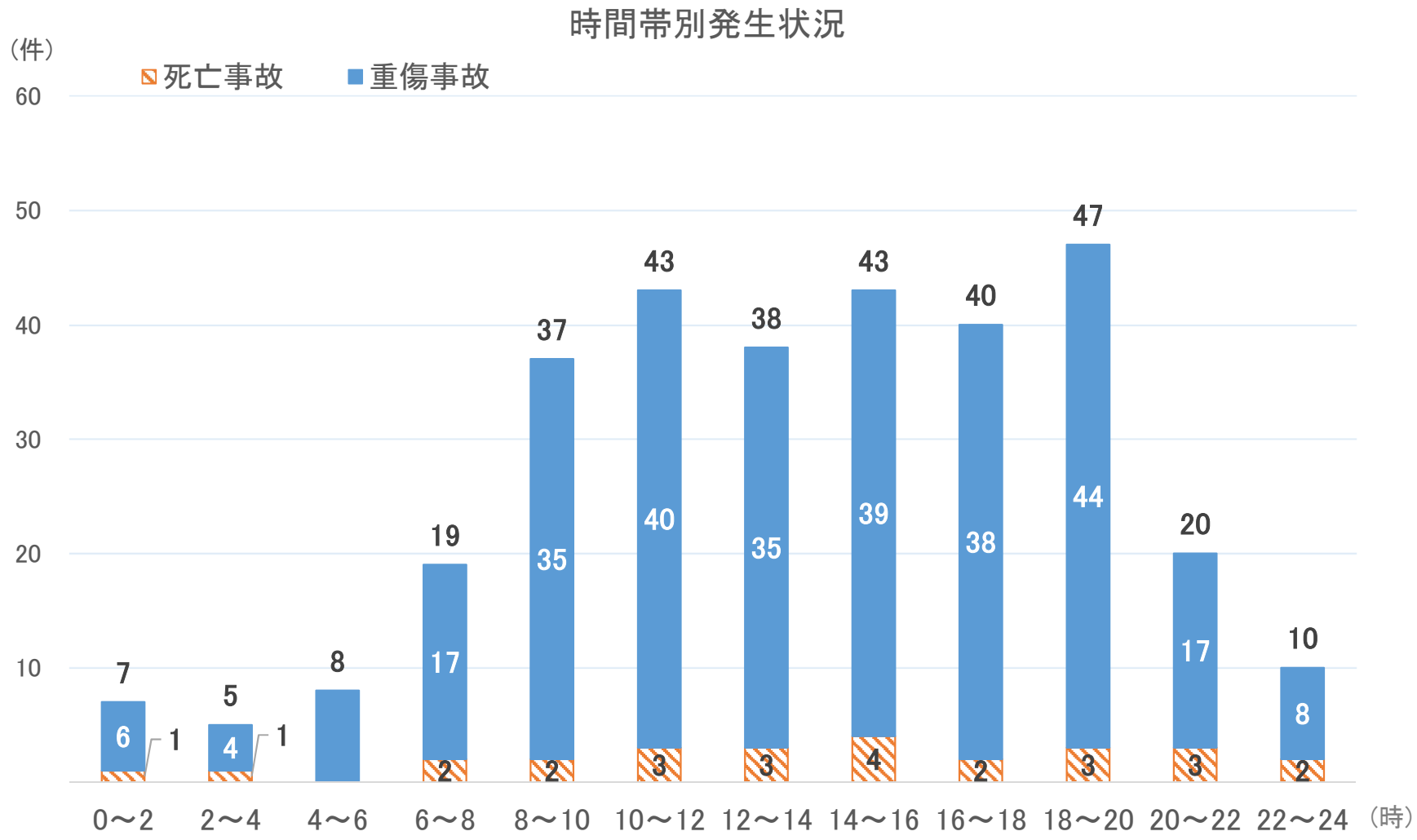
１－１　年別死亡・重傷事故発生状況（過去10年）

死亡事故件数でみると増減を繰り返しながらも減少傾向で推移している。
重傷事故件数でみると増減を繰り返しながらほぼ横ばいで推移している。



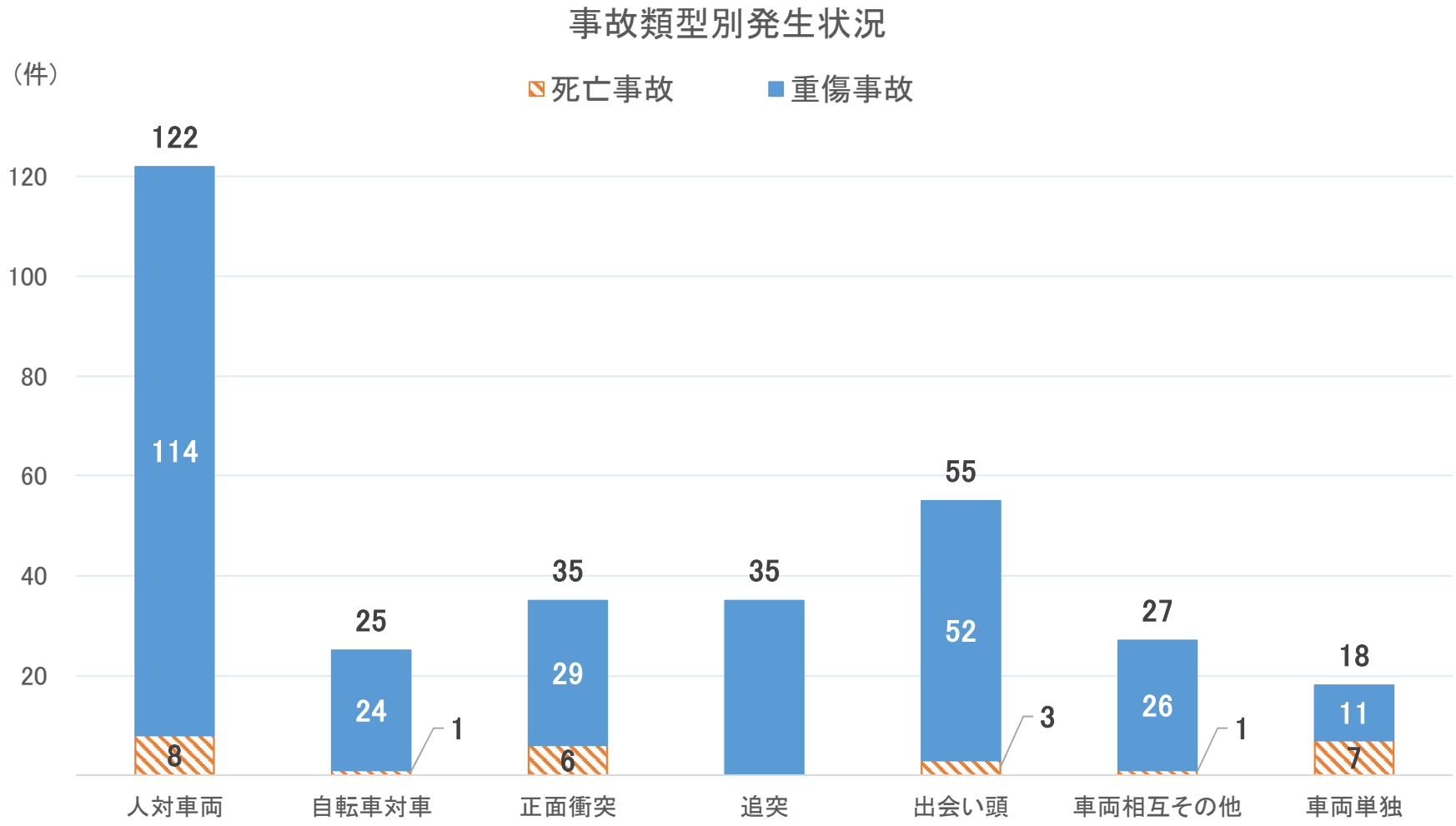
１－２　時間帯別死亡・重傷事故発生状況

発生件数全体では18～20時が最も多く、次いで10～12時及び14～16時が多い。
死亡事故件数でみると、14～16時が最も多い。



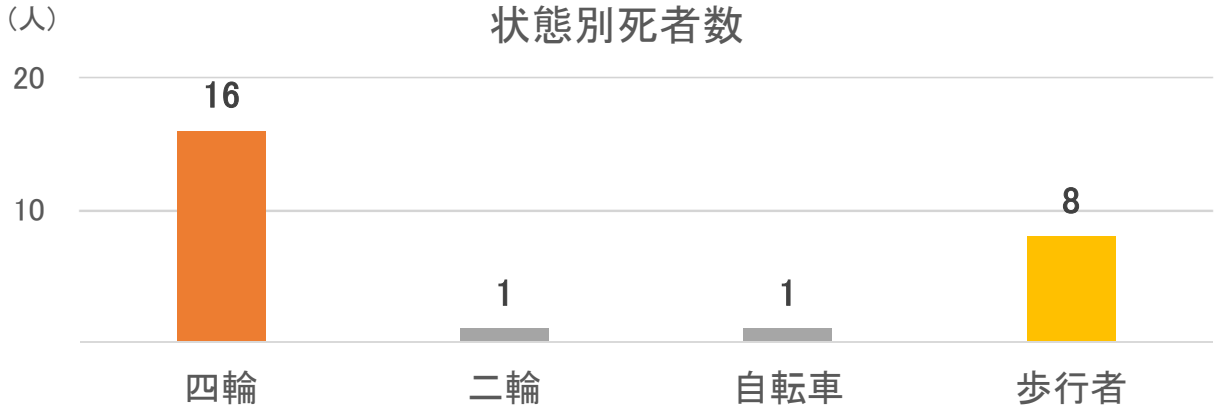
１－３　事故類型別死亡･重傷事故発生状況

発生件数全体では、人対車両が最も多く、次いで出会い頭が多い。
死亡事故件数でみると、人対車両が最も多く、次いで車両単独が多い。

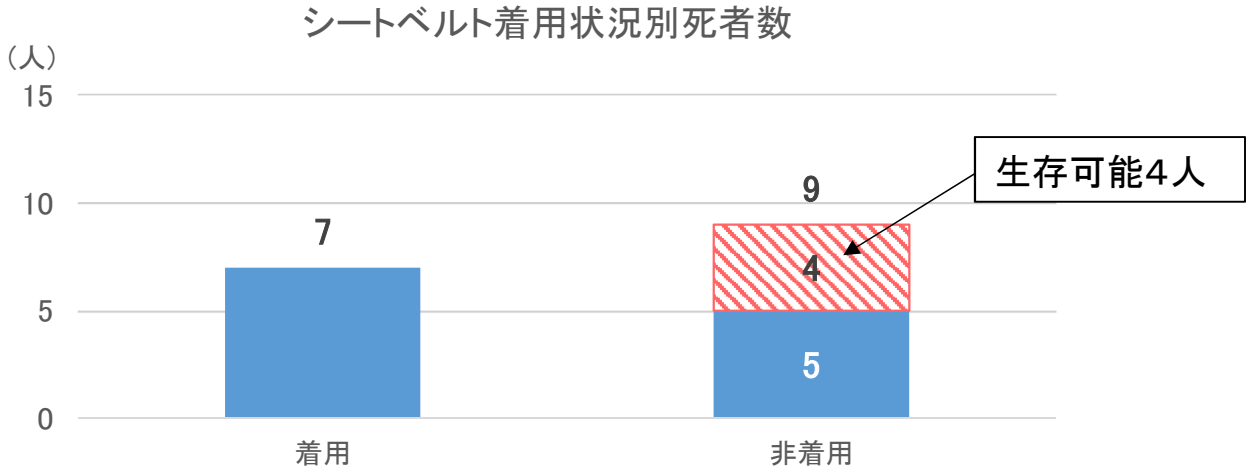


１－４　状態別死者数、シートベルト着用関係

状態別死者数は、四輪乗車中が最も多く、次いで歩行者が多い。

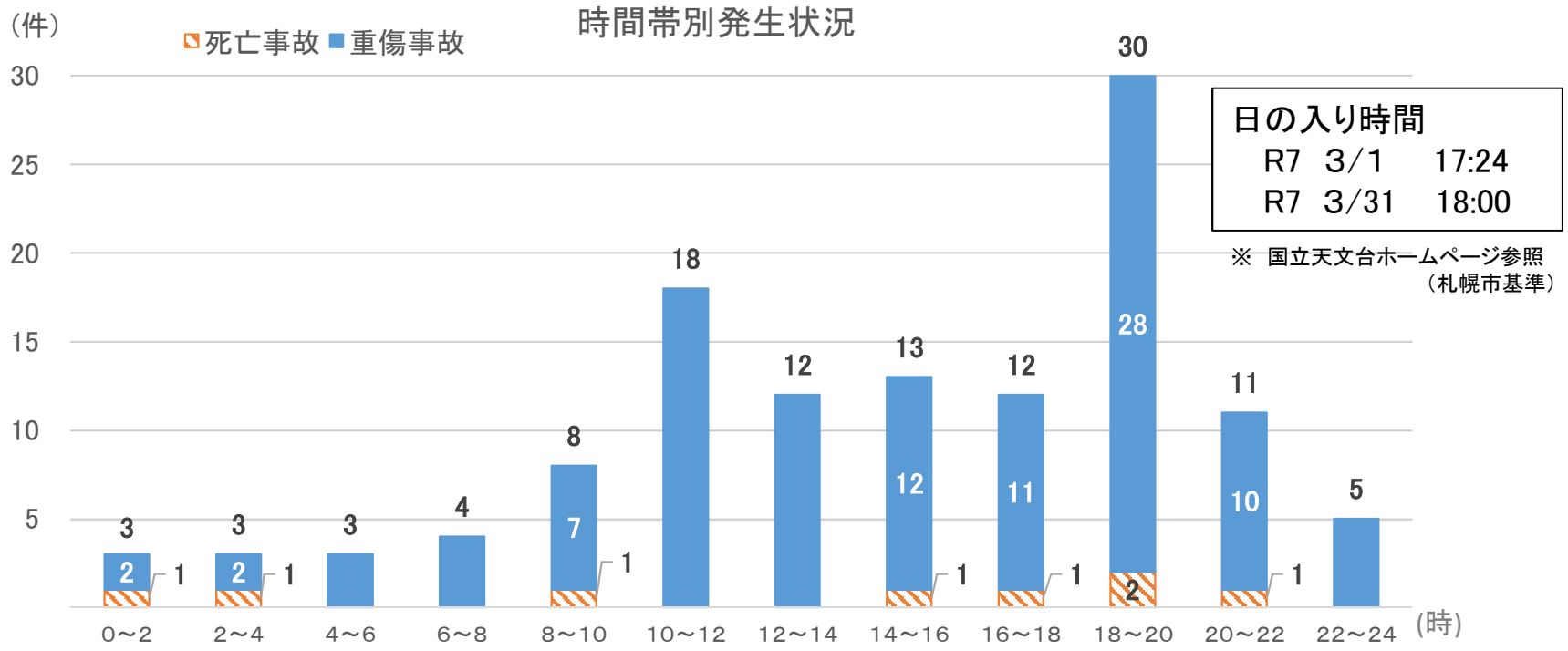


シートベルト着用対象者（四輪）の死者16人中、シートベルト非着用者は９人(56.3%)であり、このうち４人(44.4%)はシートベルトをしていれば助かった可能性が高い。



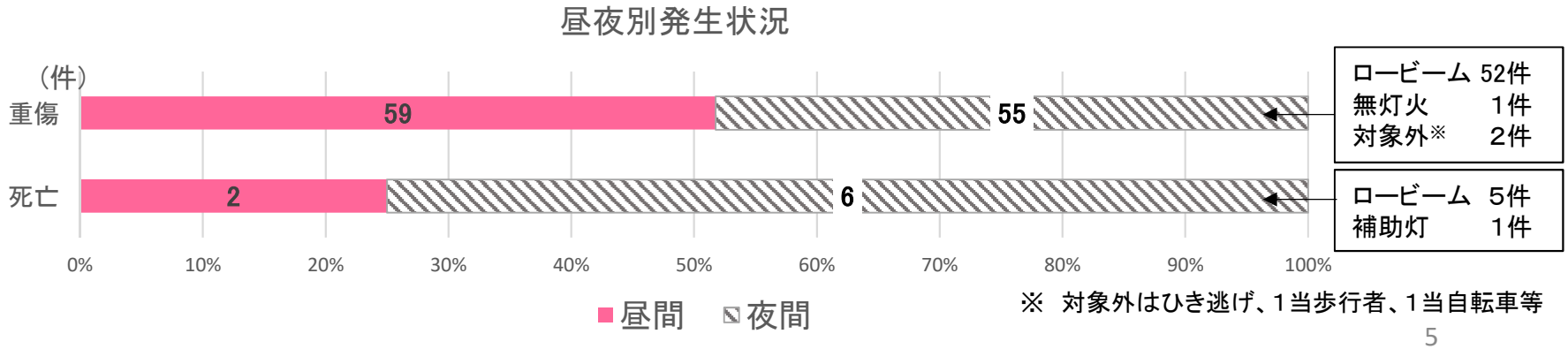
２－１　人対車両における時間帯別発生状況

死亡事故件数、重傷事故件数ともに18～20時が最も多い。



日の入り時間
R7　3/1　17:24
R7　3/31　18:00

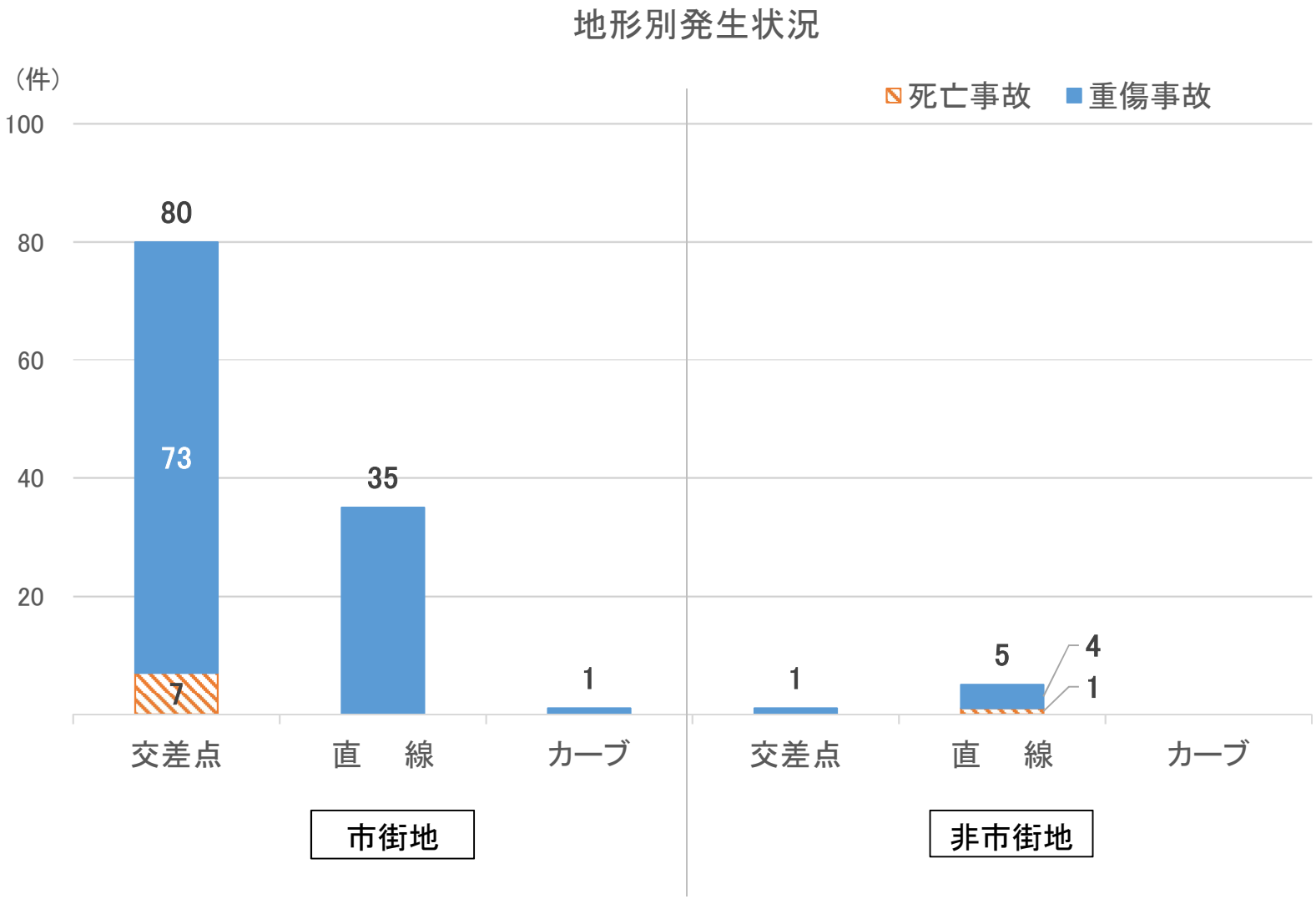
※　国立天文台ホームページ参照
（札幌市基準）



※　対象外はひき逃げ、1当歩行者、1当自転車等

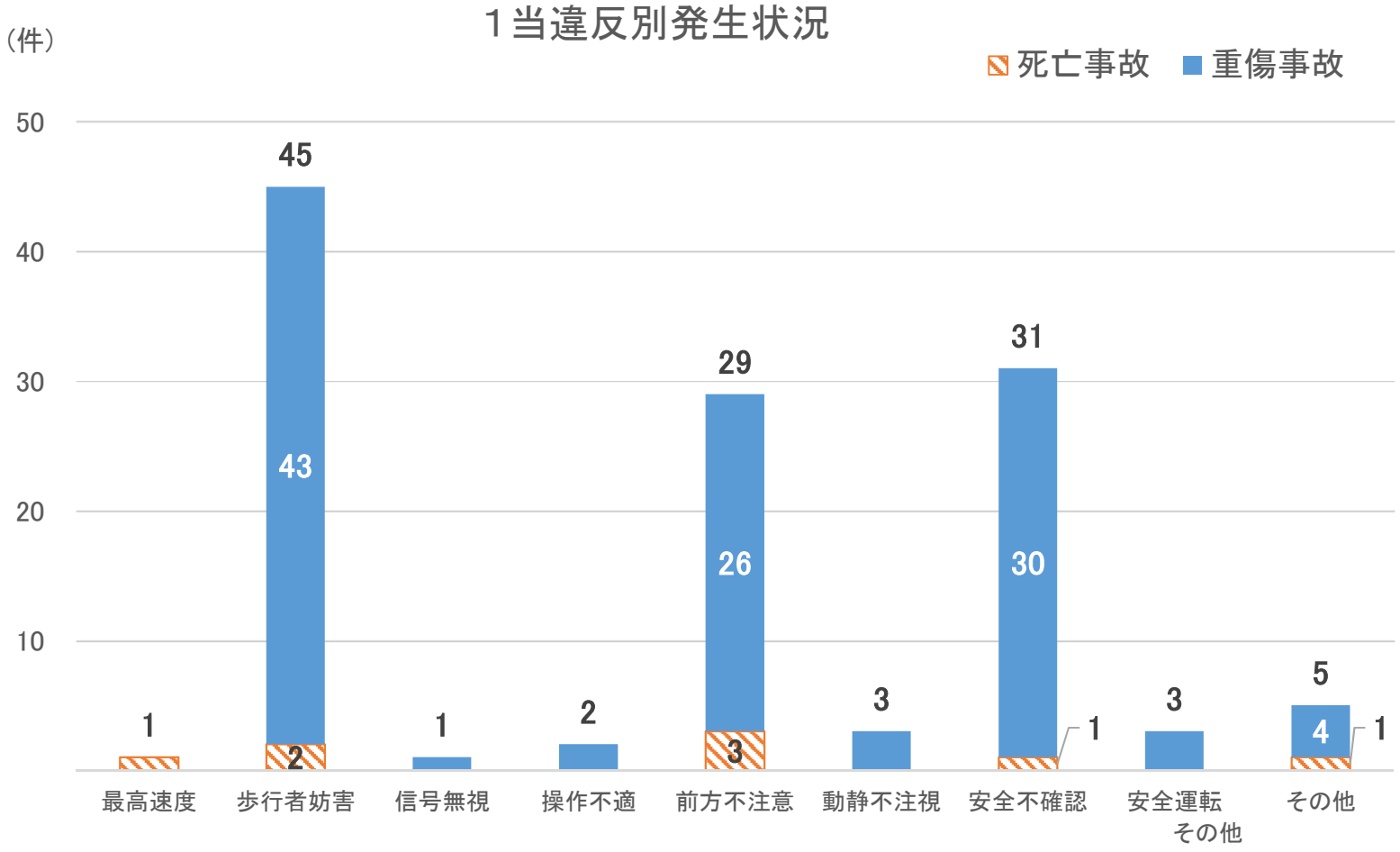
２－２　人対車両における地形別発生状況

市街地交差点及び市街地直線で9割以上を占めている。



２－３　人対車両における1当の違反別発生状況

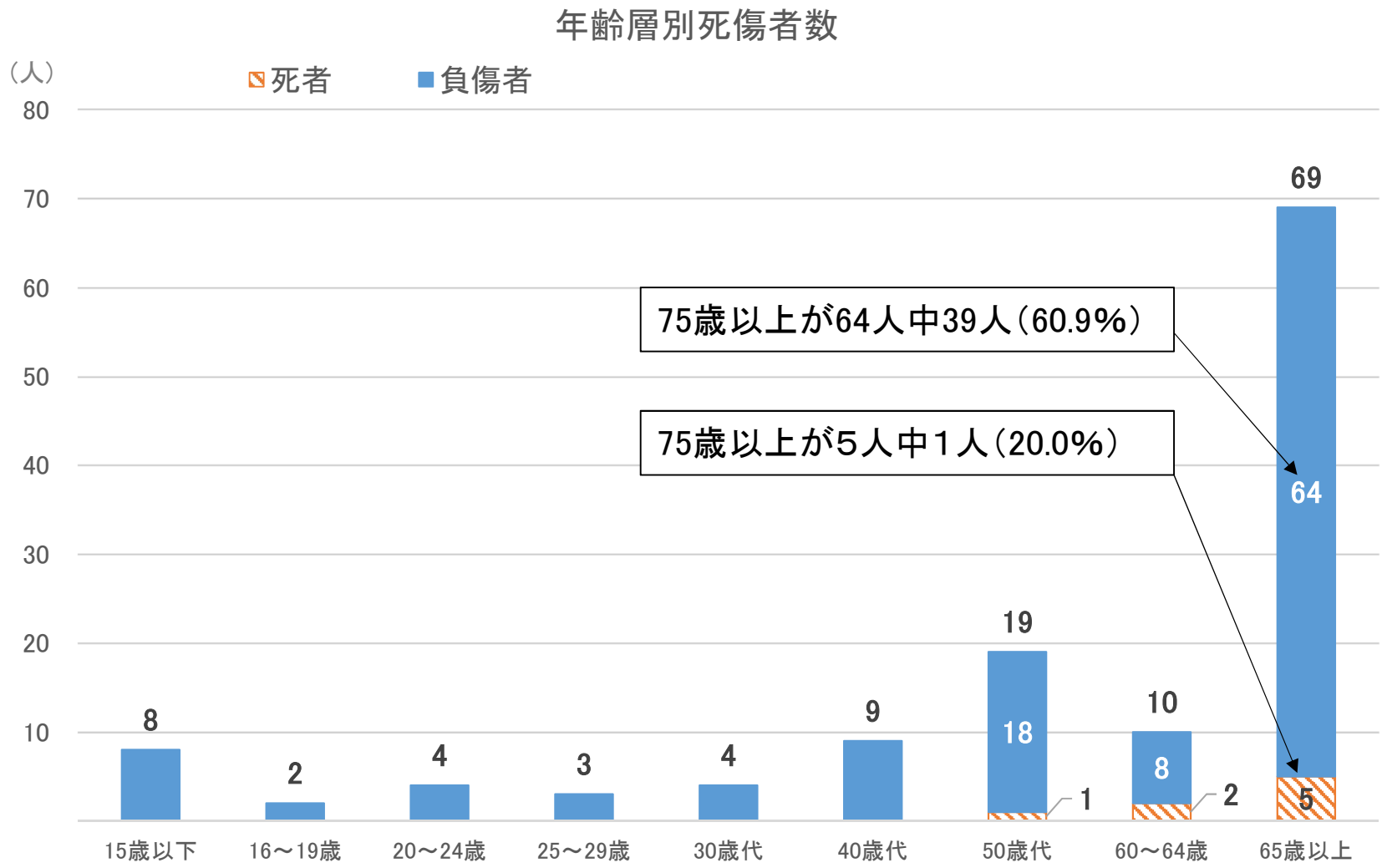
発生件数全体では、歩行者妨害が最も多く、次いで安全不確認が多い。
死亡事故件数で見ると、前方不注意が最も多く、次いで歩行者妨害が多い。



※　１当が歩行者及び自転車の場合を除く

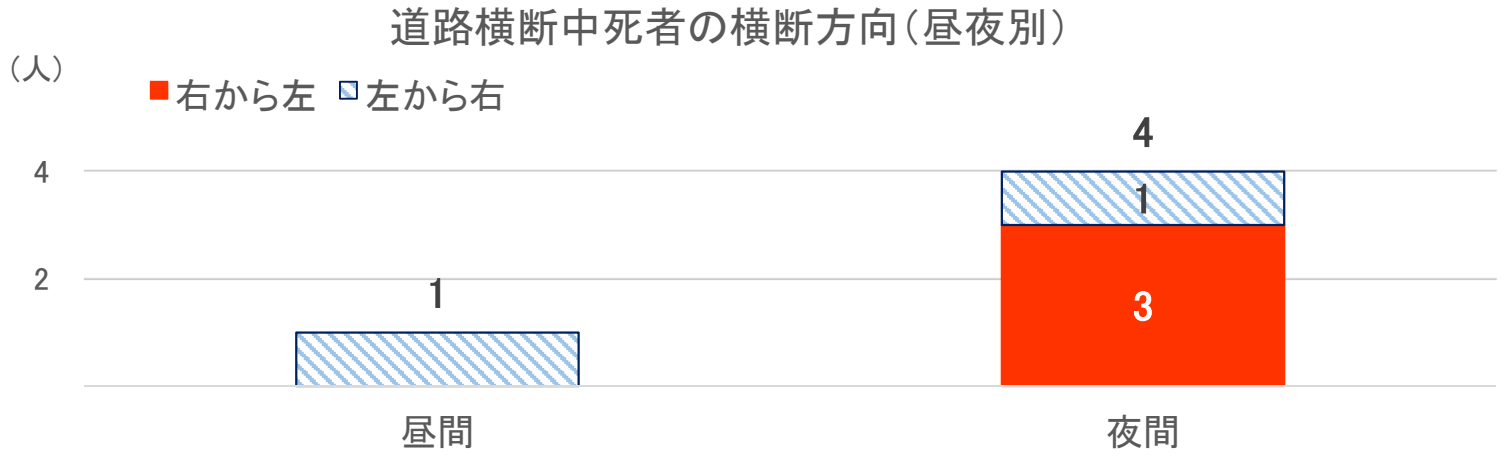
２－４　人対車両における年齢層別死傷者数

65歳以上が最も多く、全体の5割以上を占めている。

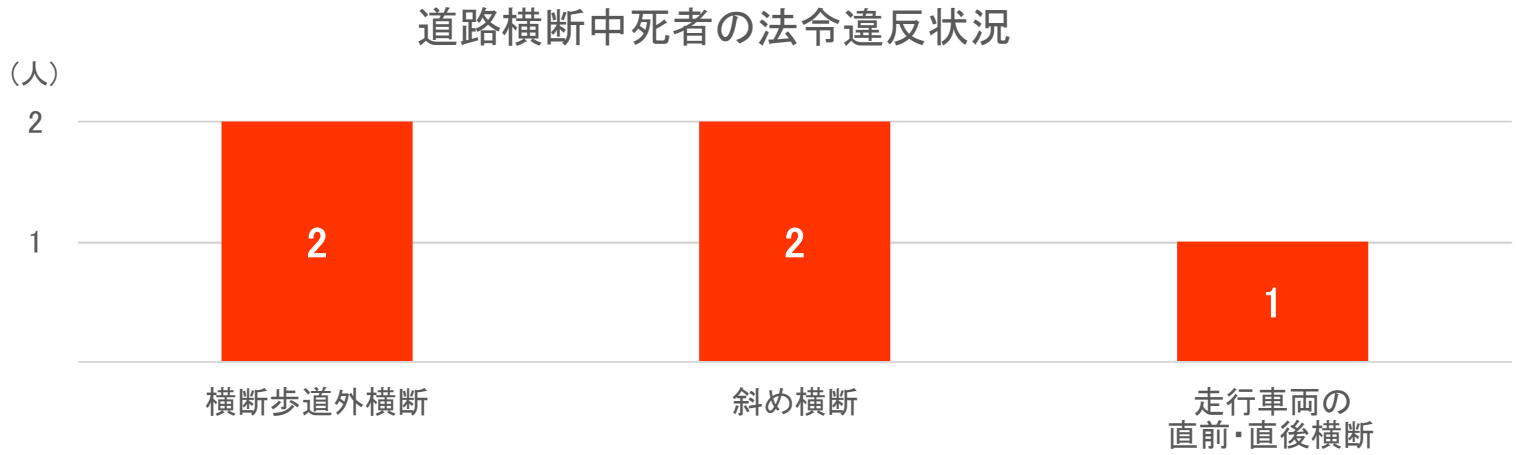


２－５　人対車両における歩行者の横断方向別死者数・法令違反状況

道路横断中の死者５人のうち、昼間が１人、夜間は４人となっており、夜間は右から横断中が多い。



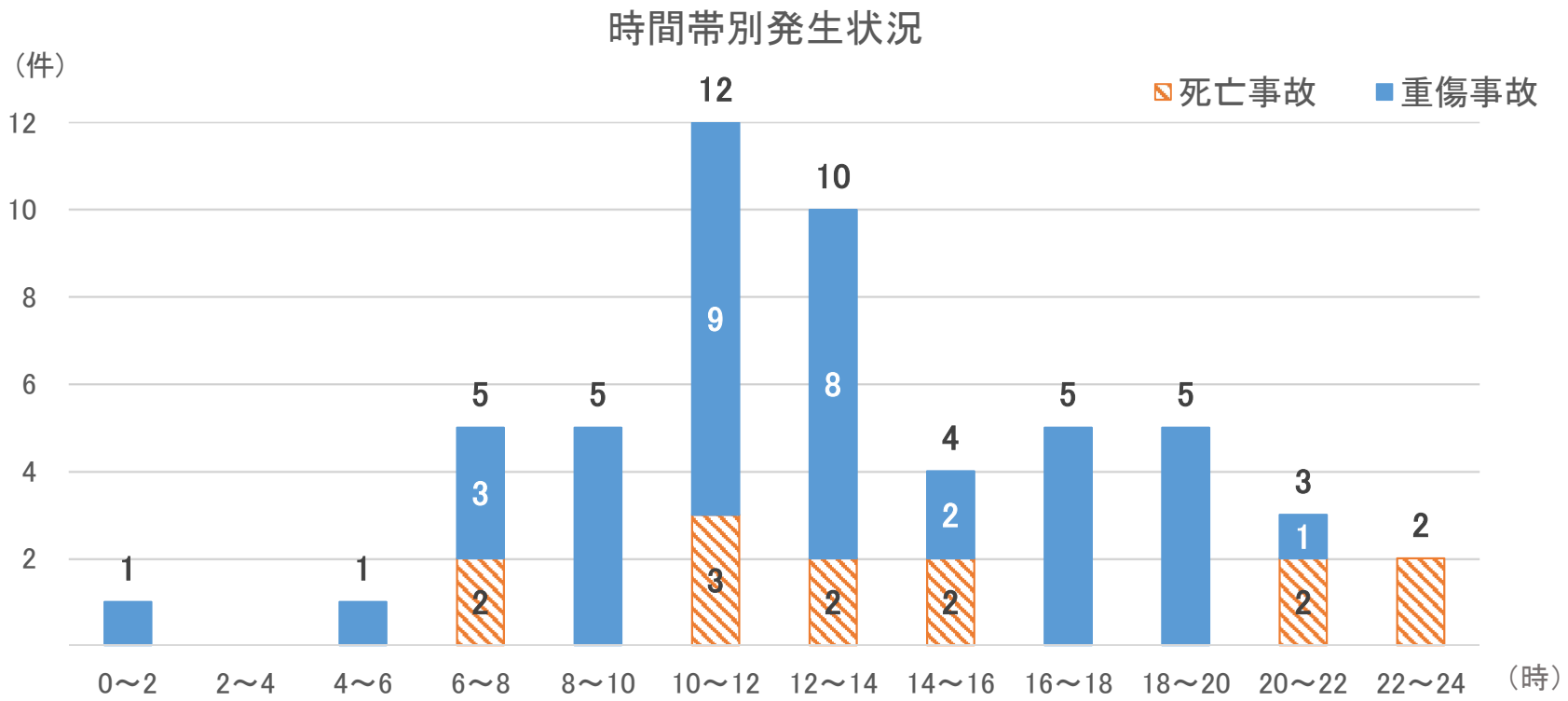
昼間～日の出から日の入りまで
夜間～日の入りから日の出まで

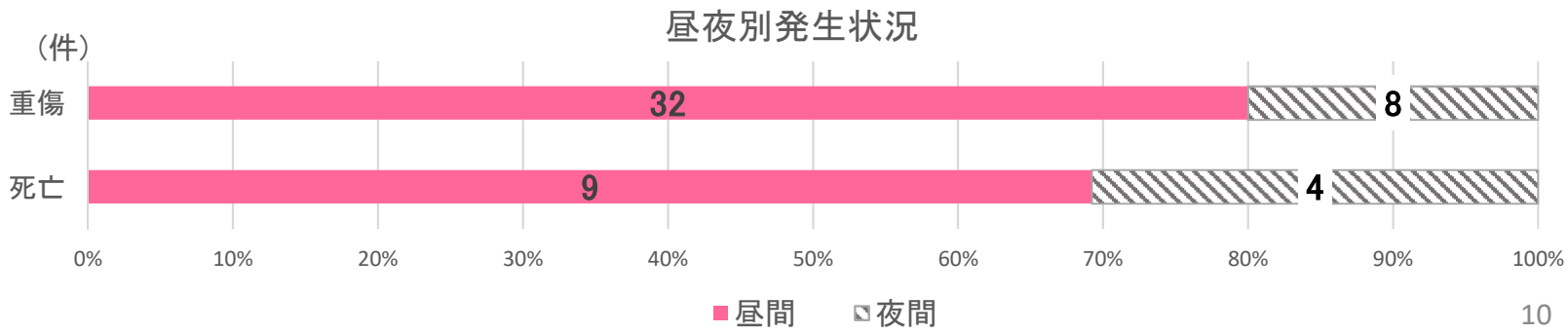


道路横断中の死者５人のうち、全員が横断歩道外横断などの「違反あり」となっている。

３－１　正面衝突・車両単独における時間帯別発生状況

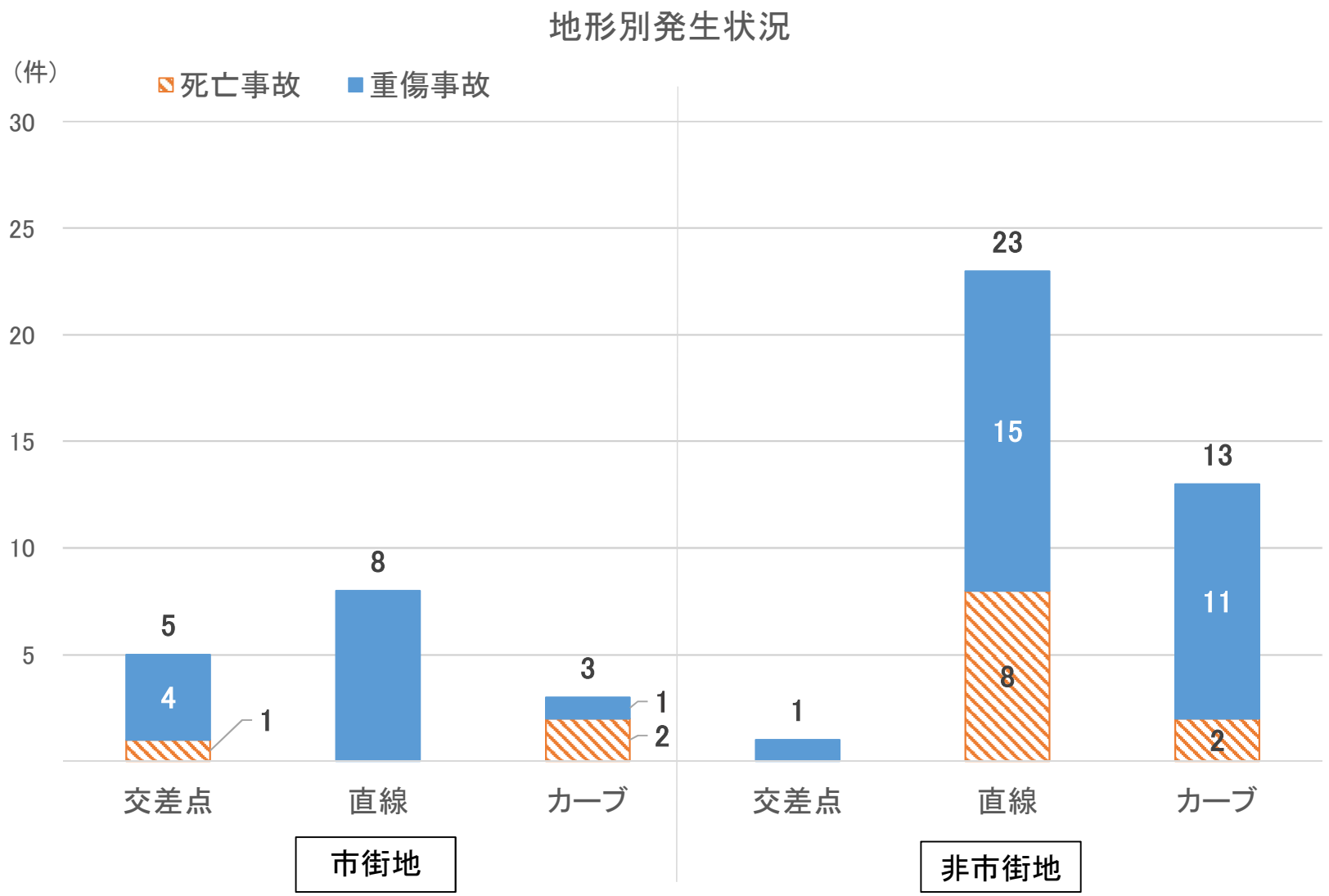
10～12時が最も多く、次いで12～14時が多い。





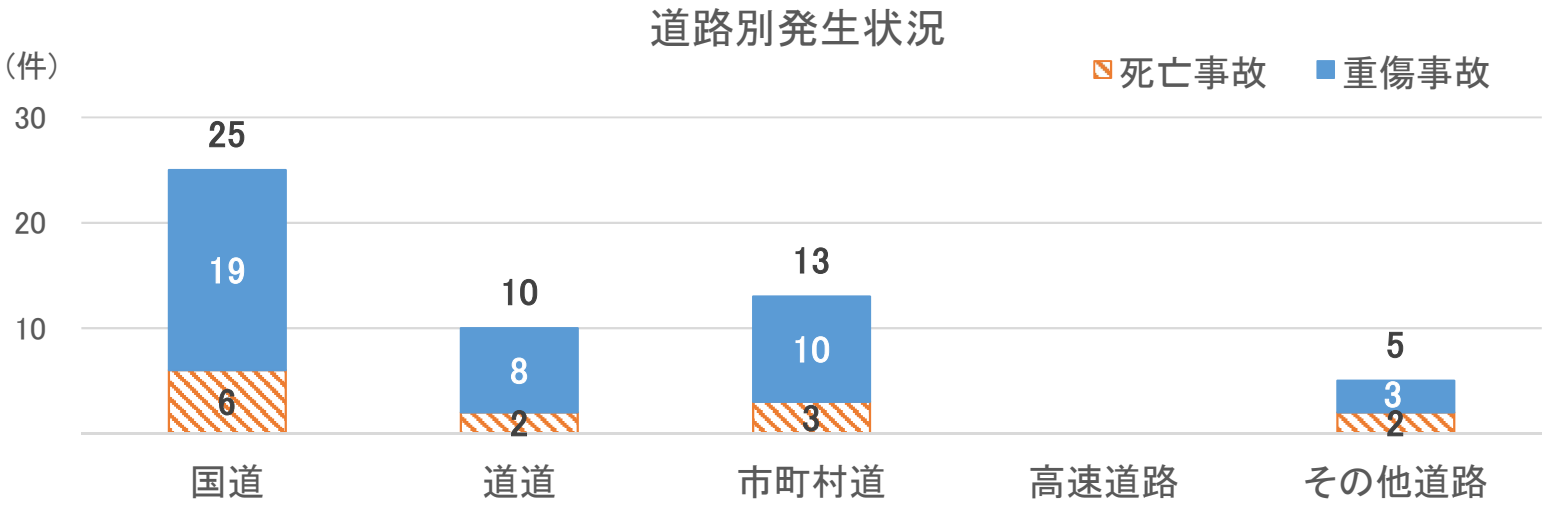
３－２　正面衝突・車両単独における地形別発生状況

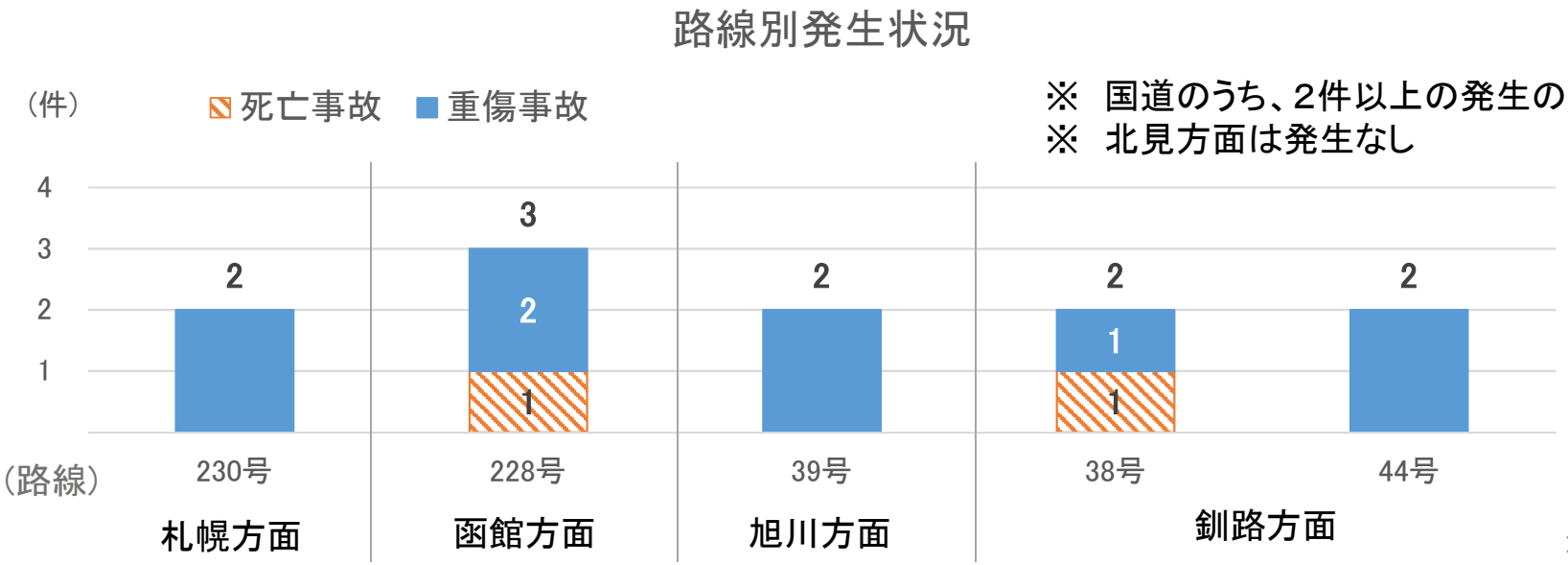
非市街地の発生が多く、全体の約7割を占める。



３－３　正面衝突・車両単独における道路別発生状況

国道での発生が最も多く、次いで市町村道が多い。

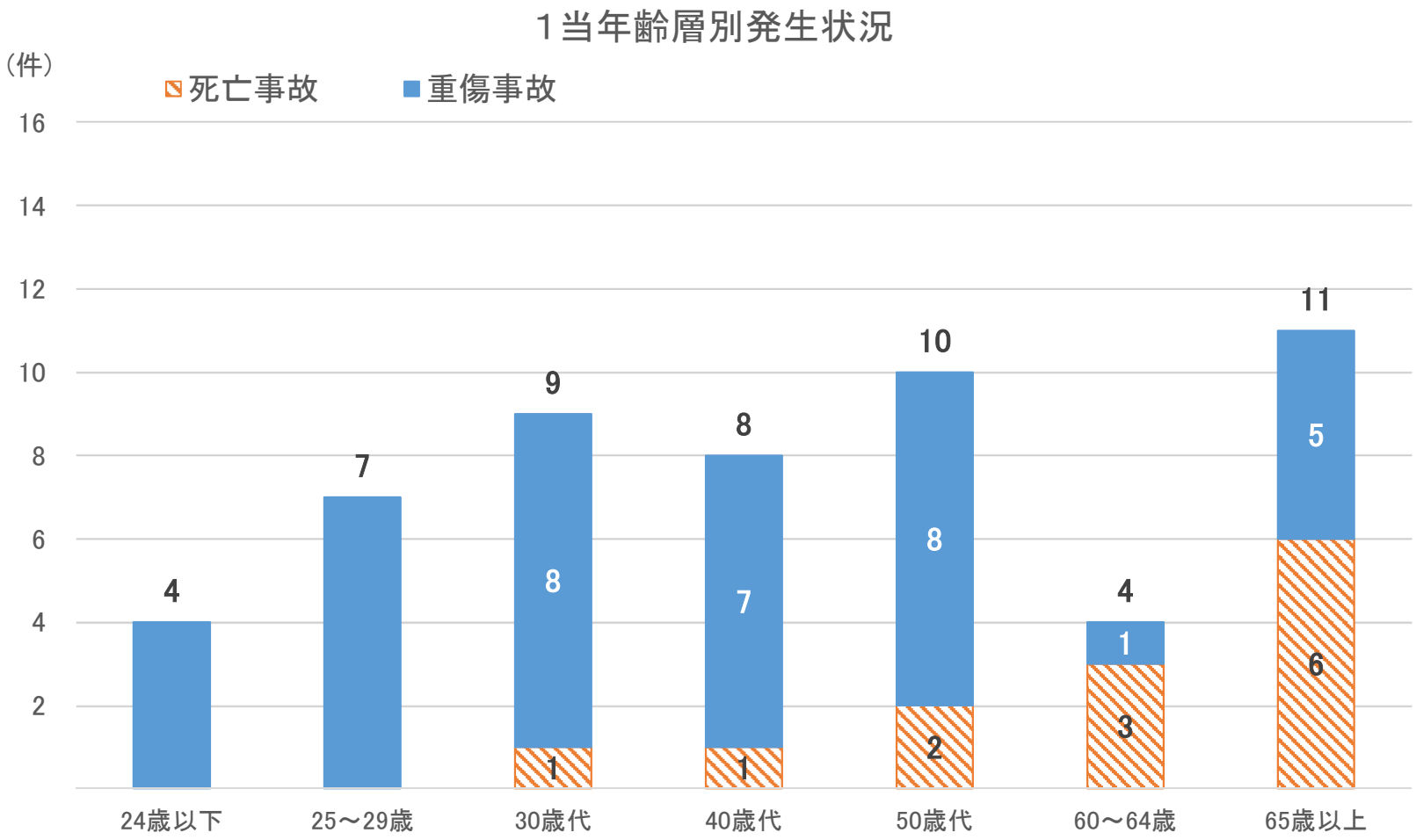




※　国道のうち、２件以上の発生のみ掲載
※　北見方面は発生なし

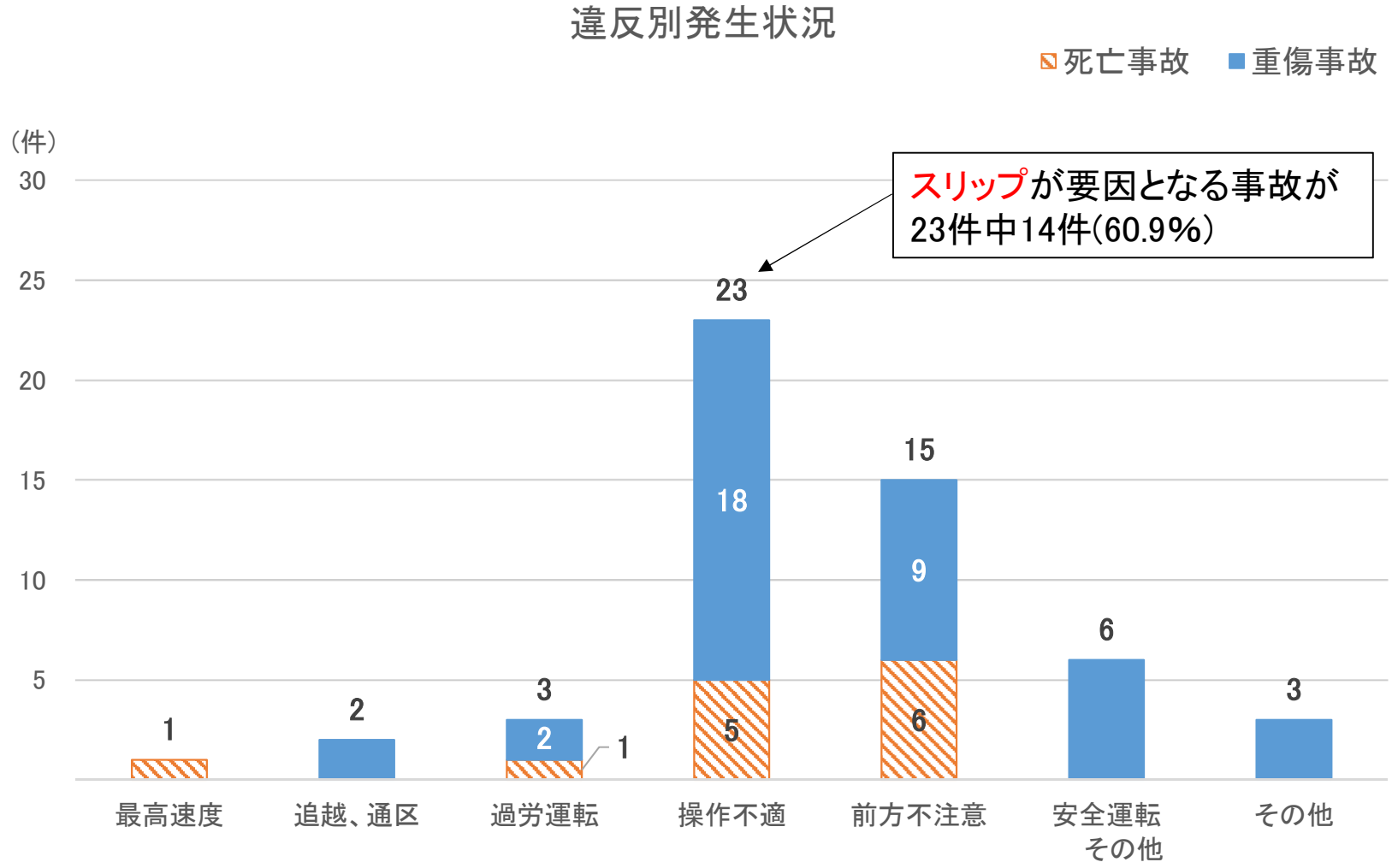
３－４　正面衝突・車両単独における１当の年齢層別発生状況

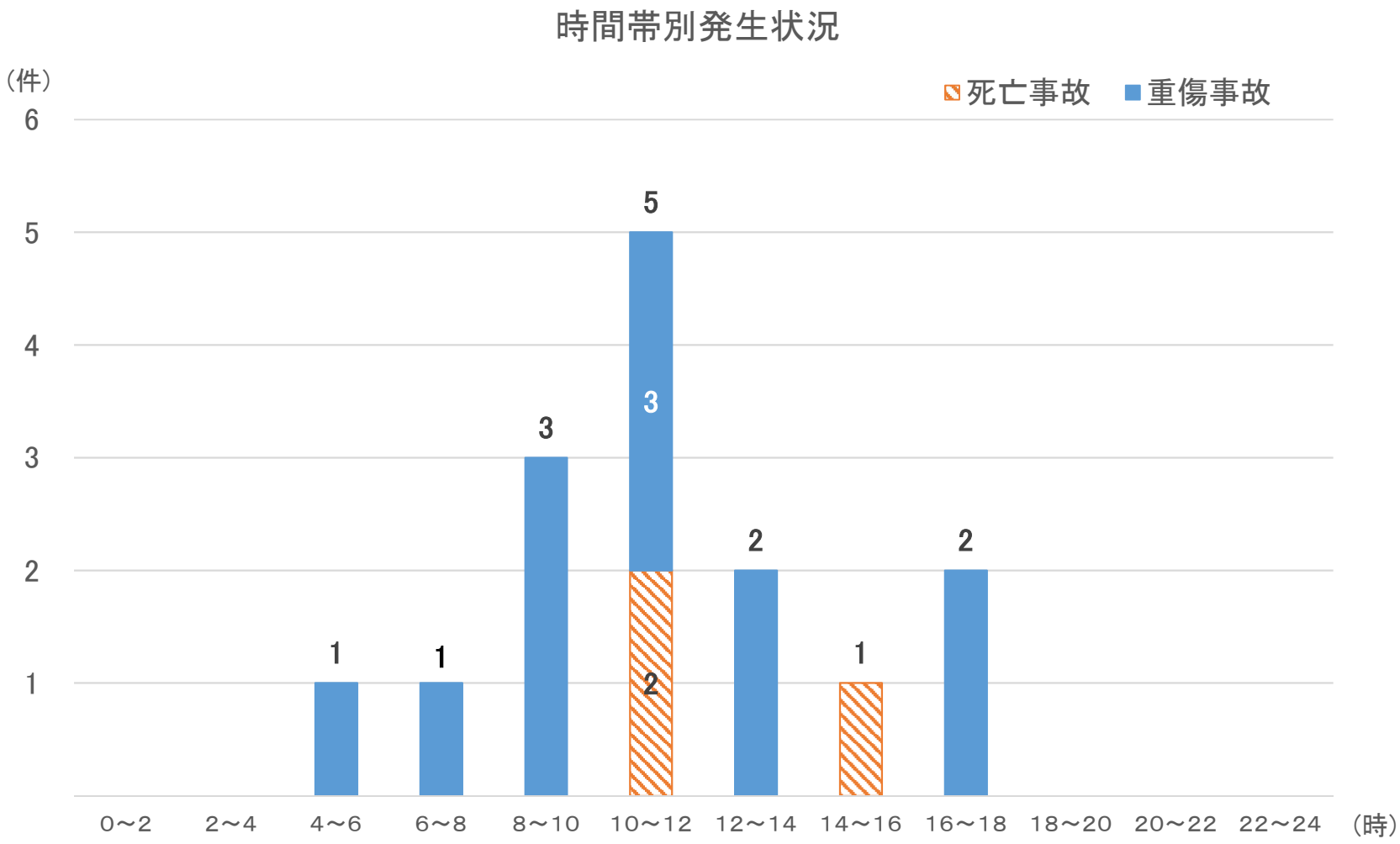
65歳以上の高齢運転者が最も多く、次いで50歳代が多い。



３－５　正面衝突・車両単独における1当の違反別発生状況

発生件数全体では操作不適が最も多く、次いで前方不注意が多い。
死亡事故件数でみると前方不注意が最も多く、次いで操作不適が多い。



３－６　正面衝突・車両単独におけるスリップ事故の時間帯別発生状況

死亡、発生件数ともに10～12時が最も多く、次いで8～10時が多い。